

令和7年(2025年)9月25日(毎月10日・25日発行)

発行／立川市 編集／広報プロモーション課
〒190-8666立川市泉町1156-9
☎042(523)2111〔代表〕 ☎042(521)2653
🌐https://www.city.tachikawa.lg.jp



人口と世帯
令和7年
9月1日現在

● 住民基本台帳記録数(前月比)	
人口	187,265 (+27)
男	92,628 (-9)
女	94,637 (+36)
世帯	98,757 (+21)

ひいらぎちゃん

きよはく

清博 × 立川歴民

れきみん

たっくん

開館40周年コラボ展示

郷土の理解を深める講座などを行う「立川市民科」です

清瀬市郷土博物館と立川市歴史民俗資料館はともに昭和60年に開館し、今年で40周年を迎えます。
これを記念して、両館の学芸員がイチオシする所蔵資料を交換して展示するミニ企画展を開催します。いずれも直接会場へ。



明治後期～大正初期か
(清瀬市郷土博物館所蔵)

縞織物の端裂。表面をよく見ると、無数のほころびや継ぎはぎの跡が見られ、何度も直しては使っていたことがわかります。



大正時代～昭和時代か
(立川市歴史民俗資料館所蔵)

庶民の羽織であった半纏の一種。多摩地域では職人だけではなく農家の人々も着用しており、正月や挨拶まわりでの外出着としても着用していました。



昭和30年代か
(立川市歴史民俗資料館所蔵)

昔は布も貴重だったため、使い古したボロ布を再利用して継ぎ合わせて作られています。穴が開いた箇所や破れた箇所が丁寧にかがり縫いされており、さながらパッチワーク作品のようです。

清博 学芸員イチオシポイント

清瀬市の農家の土蔵から見つかった端裂です。この農家は明治後期～大正初期に機屋(人を雇って布を織り、売却した)を営んでいて、そのころに織られた布であると思われます。土蔵には端裂だけでも300点以上が保管されていました。

左の端裂にはかすり糸で織ったランダムな模様が見られます。村山紆を織って余った糸を使用したと推測されます。

一見、ただのボロ布に見えますが、当時の人々にとっては貴重な素材で、再利用できるよう端裂も大切に残していました。使い古した布は最後には燃して畑の肥料にされていたともいわれ、本来は残らないものですが、偶然保存されていたのがこれらの資料です。

in清博

10月1日(水)～12月7日(日)

午前9時～午後5時(月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合は翌日休館)

📍清瀬市郷土博物館(清瀬市上清戸2-6-41)

☎清瀬市郷土博物館 ☎042(493)8585



まえはらきよしくん

立川歴民 学芸員イチオシポイント

青梅街道に沿った砂川では、青梅縞や村山大島紬に類する絹織物が織られてきた歴史があり、明治時代に都心で評判であったという砂川地域の「砂川太織り」という織物も、現在の村山大島紬に通ずるものといわれています。

印半纏は砂川地域の民家で玉繭で紡いだしけ絹で織られた「うちおり」で、原物資料が残存しない「砂川太織り」を推測できる資料ではないかと考えています。

雑巾は、そのように織られた「うちおり」の端切れなどを継ぎ合わせて作られており、最後まで無駄なく大切に使用される布の一生が見て取れる、とても貴重な資料です。

in歴民

令和8年1月20日(火)～3月15日(日)

午前9時～午後4時30分(月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合は翌日休館)

📍立川市歴史民俗資料館

☎立川市歴史民俗資料館 ☎(525)0860



すーちゃん



市の情報はWebやSNSでも発信中!!



市公式ウェブサイト



市公式 X



市公式 LINE



立川市動画チャンネル

広告

広告欄

※広告に関する問い合わせは…総合広告代理店 フレックス株式会社 ☎042(528)1611へ